



農村基盤研究領域
事業評価担当主任研究員
鬼丸 竜治

水路の維持管理への労力提供意欲を 向上させる要因の選択方法

近年、高齢化・混住化などの進行により、農業用水路の維持管理に必要な労力が脆弱化しています。そのため、非農家も含めた地域住民に対して、維持管理への参加を要請する取り組みが行われています。そこで、住民が維持管理へ参加しようと思う気持ちを「労力提供意欲」と呼び、これを向上させるために働きかける要因の選択方法を提案しました。

先行研究をもとに要因を整理・検討すると、労力提供意欲には、農業用水に対する受益意識などの要因が影響を与えと考えられます。また、それらには、農業用水の利用経験などの要因が影響を与えと考えられます（図1）。そこで、住民に働きかける場合、はじめに図1の各要因に対応した質問紙調査を行います。次に、調査結果を数量化 類という統計手法

で分析し、各要因が与える影響の大きさを求めます。そして、影響が大きな要因から順に選択して働きかける内容を検討すると、効果的に働きかけることができると考えられます。

具体例として、混住化が進む山形県S地区において、85人分の質問紙調査の結果を分析しました。すると、労力提供意欲に与える影響の大きさは、維持管理に対する必要性意識が1位でした（表1）。また、必要性意識に最も大きな影響を与える要因は、地域用水機能の認知度でした（表2）。したがって、S地区では、地域用水機能の認知度を高める働きかけの内容を検討することが、労働提供意欲を向上させるために有効であると考えられます。

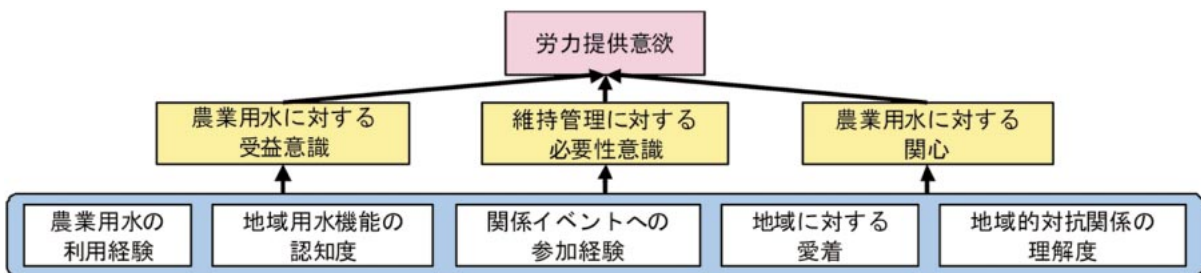


図1 労力提供意欲に影響を与える要因

表1 労力提供意欲に与える影響の大きさ
(山形県S地区)

影響を与える要因	影響を受ける要因	
	値	順位
農業用水に対する受益意識	0.253	2
維持管理に対する必要性意識	0.608	1
農業用水に対する関心	0.212	3

表2 維持管理に対する必要性意識に与える影響の大きさ
(山形県S地区)

影響を与える要因	維持管理に対する必要性意識	
	値	順位
農業用水の利用経験	0.518	2
地域用水機能の認知度	0.680	1
関係イベントへの参加経験	0.504	3
地域に対する愛着	0.347	4
地域的対抗関係の理解度	0.127	5